



- T O P I C S**
- ・ 在留資格許可基準の見直しについて
 - ・ 日本に残りたい—経営・管理ビザ相談の現場から
 - ・ ぐるっと世界たんぼう：韓国
 - ・ OFIX 事業報告：実務で活かす やさしい日本語研修
 - ・ その他の事業報告

在留資格許可基準の見直しについて

在日外国人の増加に伴い、入管法に関するニュースを目にする機会が増えました。法整備が進んでいますが、改正により大きな影響を受ける外国人もおられます。この1年間に、施行された基準の変更等について、いくつかピックアップしてみました。

具体的改正内容

概要	項目	従前	改正後	参考
在留資格「経営・管理」の許可基準では、資本金や日本語能力等の条件が改正	資本金	500万円	→ 3,000万円	
	雇用義務	なし	→ 1人以上の常勤職員が必要	
	日本語能力	なし	→ 申請者か常勤職員のどちらかが、CEFR・B2程度の日本語能力が必要	
永住許可申請では、保持している在留資格で、最長の在留期間をもって在留していることが必要 (2027年3月31日まで経過措置)	「技術・人文知識・国際業務」の場合	3年	→ 5年	
	「定住」の場合	3年	→ 5年	
在留資格「技術・人文知識・国際業務」では、カテゴリー3・4の所属機関で言語能力を用いて対人業務に従事する場合には、言語能力を確認する資料が必要		資料不要	→ 確認資料が必要 ※1 CEFR・B2相当の日本語能力 (※2 JLPT・N2以上、※3 BJT・400点以上等)	
在留資格変更や在留期間更新の手数料及び永住許可の手数料の大幅引き上げ	在留資格更新・変更	6,000円	→ 10万円 (*法定上限)	
	永住許可	1万円	→ 30万円 (*法定上限) *政令で定められる	

詳しくは、参考二次元バーコードから、入管庁のホームページをご覧ください。

※1 CEFR: Common European Framework of Reference for Languages (ヨーロッパ言語共通参照枠)

※2 JLPT: Japanese-Language Proficiency Test (日本語能力試験)

※3 BJT: Business Japanese Proficiency Test (ビジネス日本語能力テスト)



現場の声

学習支援

一生懸命、日本語の習得や勉学に励み、晴れて府立高校への進学が決まった子どもがいます。私たちはその子の努力が報われたと大変喜んでいました。ところが、親の在留資格が更新できなくなり、このままでは高校に通えない状況だと本人から聞き、とても心配しています。

高等学校

卒業後の就職に向けて頑張っていた高校生から、「この先どうなるんやろう」との不安げな声が漏れました。尋ねてみると、「保護者の在留資格が更新できなかったら、自分も帰国しないといけない。そうすると内定をもらっても就職できないのではないか。」と悩んでいるとのことでした。もし帰国となったならば、その後、日本で働くために、再び日本に来る方法はあるのか。気になるところです。

国際交流協会

これまで家族全員で、それぞれに合った日本語教室に通っていた家族が、ある日突然姿を見せなくなりました。それも一家族だけでなく、複数です。気になってどうしているのか尋ねてみると、軒並み、在留資格の更新が厳しくなったことで、帰国あるいは他国へ移動していました。また、この地域では多かった「経営・管理」の在留資格を持つ人が減り、比較的になかった技能実習生が増えたことで、地域の様相の変化を感じています。

日本に残りたいー経営・管理ビザ相談の現場から

大阪府外国人情報コーナー

2026年に入り、大阪府外国人情報コーナーにはビザの更新や変更に関する相談が増えていきます。特に経営・管理ビザについては、許可審査基準の変更により、多くの外国人経営者が不安を抱えています。

相談者の中には、事業継続に必要な条件を満たすことが難しく、廃業を検討している人もいます。また、日本語が十分にわからず、成人した子どもが代わりに入管手続きを行うケースも見られます。従前どおり税務申告や売上報告の準備をしていたが、変更直面し、戸惑いの声も少なくありません。

経営・管理ビザの保有者の多くは、配偶者や子どもと共に日本で生活しています。そのため、在留資格の問題は本人だけでなく家族全体の将来に関わります。更新を断念して就職をめざす人や就労系の在留資格への変更を検討する人もいますが、家族を支えられる条件の仕事を見つけることは容易ではありません。



最終的に帰国を選ぶ場合でも、大きな課題があります。長年日本で暮らしてきた人や、日本生まれ・日本育ちの子どもたちは、母国の言語や文化に十分慣れていないことがあります。そのため、帰国後は新しい環境への適応が必要になります。

外国人住民は地域社会や経済を支える大切な存在です。在留資格制度の変更は単なる手続きの問題ではなく、一人ひとりの人生や家族の将来に大きな影響を与える問題であることを、日々の相談を通じて実感しています。

人生の岐路に立ち、悩みや不安を抱えている方は、ぜひ大阪府外国人情報コーナー
(<https://ofix.or.jp/life-japanese>) へご相談ください。



ぐるっと世界たんぼう：韓国



アジア東部の半島に位置する韓国（大韓民国）は、首都ソウルと南部の世界的な海洋物流都市・釜山（プサン）を軸に発展してきました。



人口と言語

国内の人口は約5,100万人で、公用語は、朝鮮王朝の第4代国王・世宗（セジョン）が1446年に頒布した独自の文字「한글ハングル」です。長年にわたり漢字を混用したり借用したりしていましたが、現在はほぼすべての日常的な文書やメディアにおいて、ハングルのみを全面的に使用しています。



代表料理

비빔밥(ビビンバ)

特徴：色鮮やか、健康的、混ぜて食べるグルメ



石鍋ビビンバ

主な材料：ご飯、もやし、ほうれん草、にんじん、ぜんまい、牛肉、卵、コチュジャン。



文化的特色

半島国家としての歴史が生んだのが、人々の温かい絆「情（ジョン）」と強い共同体意識、そして独自の「興（フン／楽しむ心）」の文化です

「情」

1997年の経済危機の際に、国民が金（ゴールド）の指輪やネックレスなどを持ち寄り、国の外貨確保を支援した「金集め運動」は、「情」の象徴です。市場や食堂で「おまけ（サービス）」をたくさんくれたり、おかず（パンチャン）を惜しみなく追加してくれたりすることが、「情（ジョン）」の代表的な例です。

「興」

K-POPで注目すべきは外国人メンバーと共に世界を舞台に躍進する多国籍グループが、自由に活動することが素晴らしい点です。このように多様な文化を受け入れ、共に新しい価値を創造していく姿勢が最近の韓国の大衆文化の特徴です。



OFIX 事業報告：実務で活かす やさしい日本語研修



6月23日(火)に行政職員向けの「実務で活かす やさしい日本語研修」を実施しました。

元・自治体職員で、現在はNPO法人スタッフ/行政書士/大阪府教育庁府立高校多言語支援スーパーバイザー（在留資格）をされている上林 均寿氏よりご講義と演習をしていただきました。

「やさしい日本語」は答えが1つではなく、相手に合わせて伝え方を変えるように工夫し、あたりまえを見直してみましよう、というところからスタートしました。

グループワークでは、ふだん何気なく使っている言葉「メモして」、「雨天中止」などを、やさしい日本語にして相手に伝える演習をしました。単なる書き換え、言い換え技術ではなく、誰に、何を、どのような場面で伝えたいのか、どうしたら相手により伝わるかをイメージしながら、そこにプラスして相手へのやさしさを添えることが大切であると学びました。



受講者の方々からは、「単純にわかりやすい単語に変換するだけではないということに気づかされた。」「チームで話し合うことで、自分では思いつかないようなアイデアが出て、勉強になった。」等のお声をいただきました。

その他の事業報告

5/25 - 6/8 2026年度第1回外国人相談対応力研修

6/13 第2回生活オリエンテーション(防犯)
@堺留学生会館オリオン寮

7/6 外国人相談対応力事業 第1回ワーキング



編集後記

最近、北米や欧州など世界各地が熱波に襲われ、気温が40度や50度に達する地域もあります。日本でも多くの府県で「熱中症警戒アラート」が発表されており、地球温暖化の深刻化を実感せざるを得ません。この猛暑を乗り切るため、日常生活ではこまめな水分・塩分補給を徹底し、外出時は日陰や冷房の効いた涼しい場所で安全を確保してください。特に、体温調節が難しい小さな子どもや高齢の方が身近にいる場合は、周囲の人も意識して声をかけ合い、みんなで熱中症を防ぎましょう。

OFIX賛助会員募集中！

法人1口年額50,000円 個人1口年額3,000円

<https://www.ofix.or.jp/donate/>

- ◆OFIX発行の印刷物、報告書その他の刊行物を無償又は優先的に提供
- ◆OFIXの事業活動や国際交流に関する情報等を掲載した「OFIXニュース」(季刊)や報告書(年1回)の送付
- ◆OFIXホームページバナー広告無料掲載(法人会員様)

※公益財団法人に対する寄附金の税上の優遇措置適用法人

OFIXホームページ バナー広告募集中！

<https://www.ofix.or.jp/banners/>

JICA大阪デスク@OFIX

OFIX事務所に「JICA大阪デスク」を設けています
Tel: 06-6966-2400

Email: jicadpd-desk-osakafu@jica.go.jp



OFIXニュースへの感想、ご意見等お待ちしております
info@ofix.or.jp

ボランティアの登録状況

外国人サポーター：135名

語学ボランティア：537名

災害時通訳・翻訳ボランティア：212名

2026年7月15日現在

各ボランティアの応募については、QRコードをスキャンしてください。



ボランティア



サポーター

アクセス



公益財団法人大阪府国際交流財団(OFIX)

〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-5

マイドームおおさか5階

TEL: 06-6966-2400 FAX: 06-6966-2401

Email: info@ofix.or.jp